

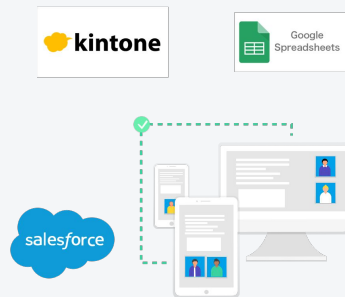
ノーコードで実現する データ整備とは？



01. データ活用におけるデータ整備の課題について
02. データ連携基盤を活用したDX実現のポイント
03. 滑らかなデータ基盤を実現するノーコード型ETLサービス
Reckonerとは

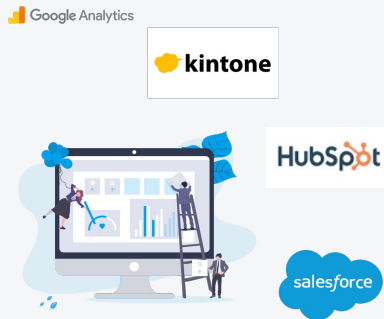
01

データ活用におけるデータ整備の課題について



情報共有コストの削減

事業KPIや顧客データなどを自動で共有することによって組織内の情報共有を円滑に



課題の発見及び戦略の立案

日々の施策の効果や、顧客行動を分析することで、データドリブな施策の立案が可能



施策の費用対効果の向上

ターゲティング精度向上によるマーケティング・セールス施策の費用対効果の最大化



複数のシステムが乱立し、データのサイロ化が起きる

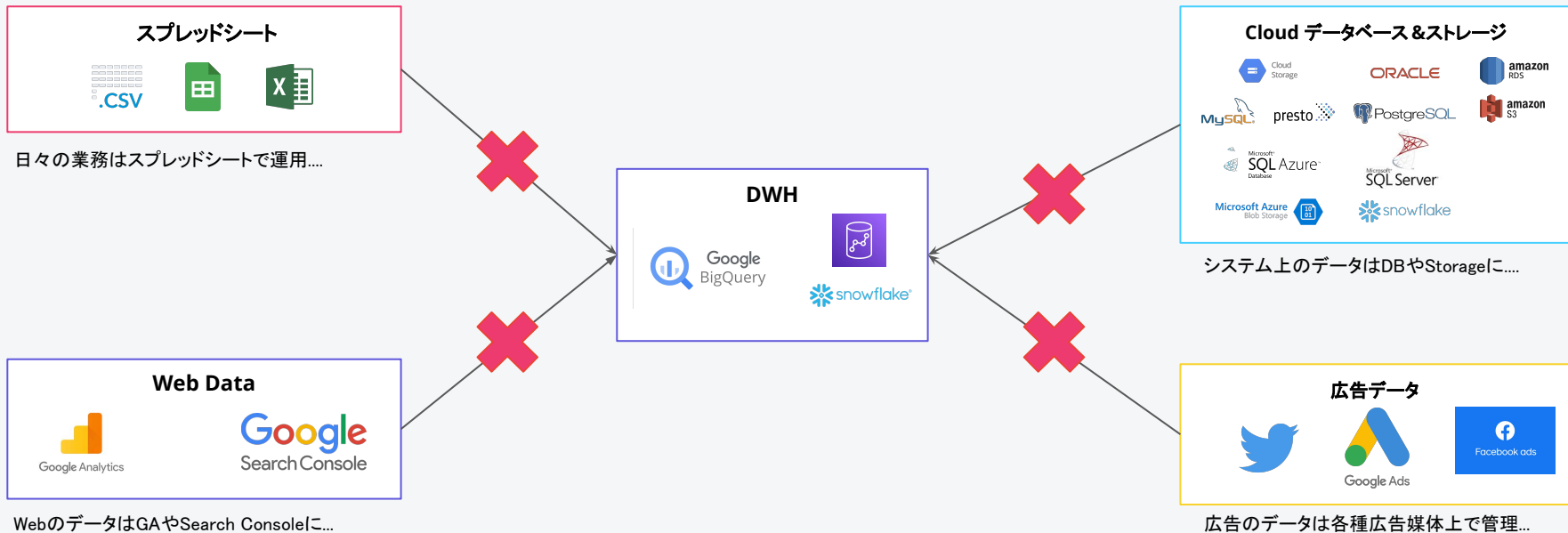


データ連携基盤の構築及び運用コストが大きくのしかかってしまう

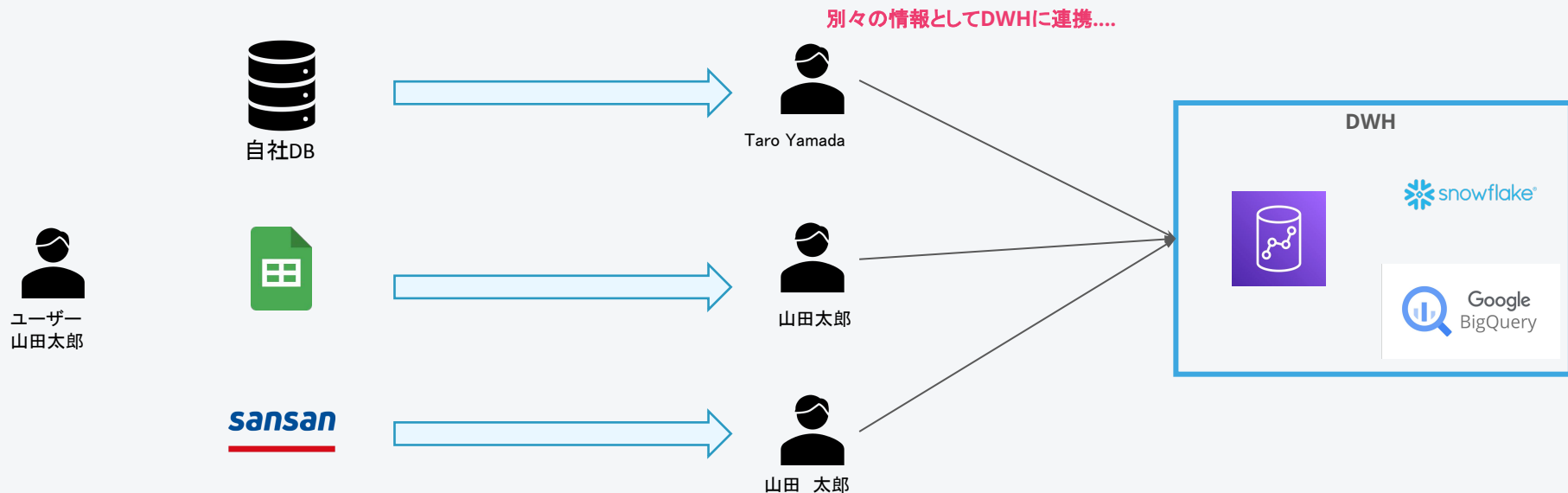


データ加工 / 名寄せ / データクレンジングをしなければならない

データのサイロ化とレガシーシステムの連携の壁



様々なツールやシステムデータなどにサイロ化されたデータを連携する為の基盤構築及び運用コストが大きな課題になる。更にレガシーシステムを利用している場合はそのコストも膨大となる。



単なる「データ連携」のみでは不要データの削除や名寄せ、データクレンジング等が行われない為、別々の情報として扱われる可能性がある。

データ蓄積が十分にされていたとしてもこういった処理を適切に行わないと結果的に「価値のないデータ活用」となってしまう可能性が高い。

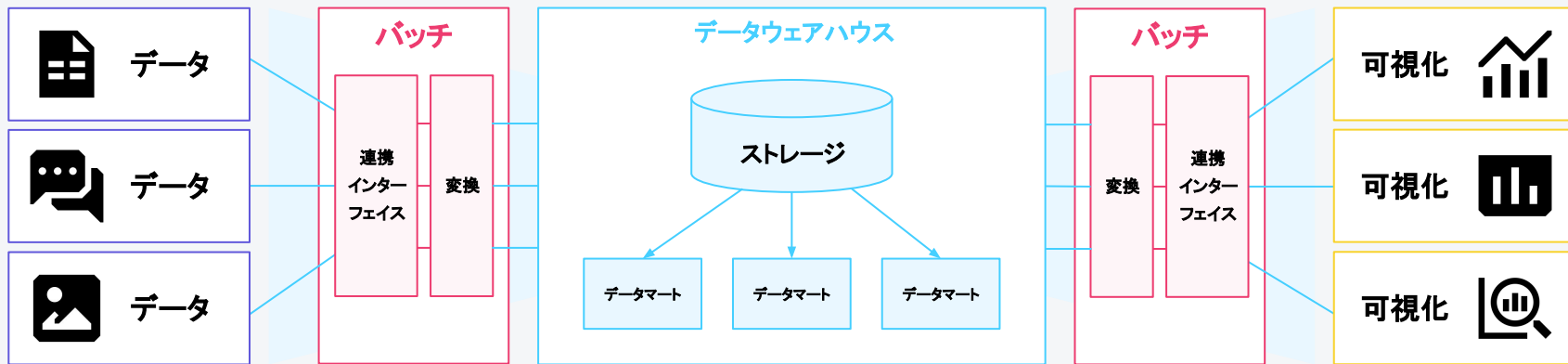
様々なデータを駆使したデータ活用をするには
これらの課題を解決するための
「低コストで容易に実現できるデータ連携基盤」の整備が必須

02

データ連携基盤を活用した DX実現のポイント



通常、データ連携を実施するためには多くのコストが必要。連携間のバッチ処理の実装コスト、実装した処理のパフォーマンス・情報漏洩を防ぐセキュリティ性の担保。さらに各実装が実装したエンジニアに属人化しがち。

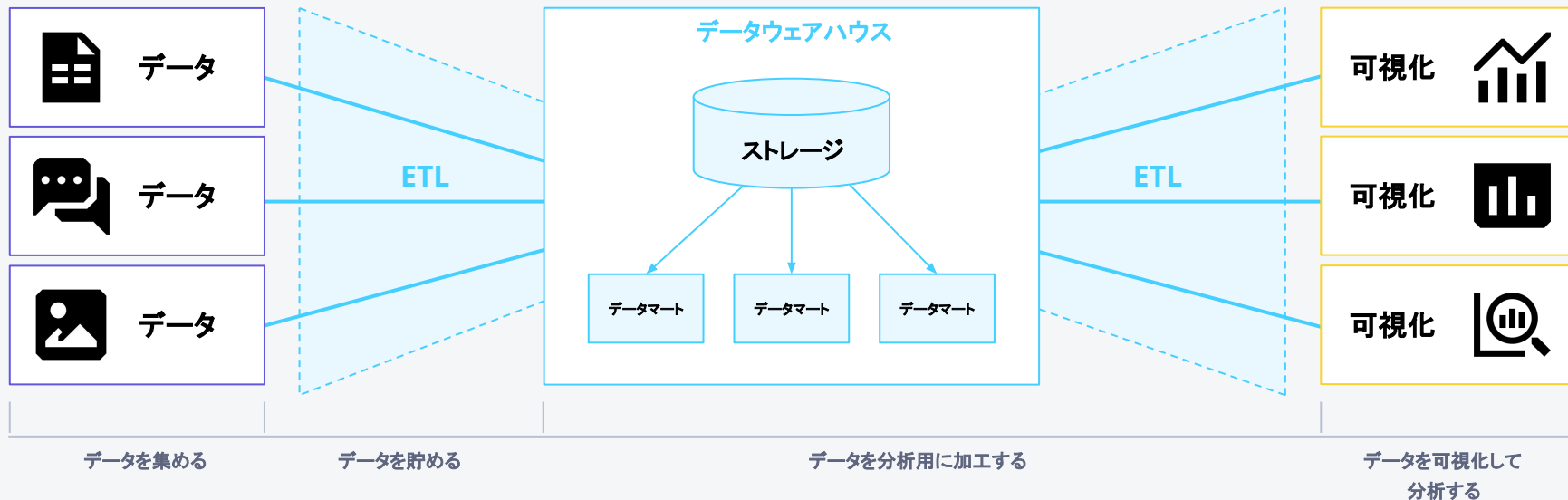


データの流れや、処理の中身が実装したエンジニアに属人化

- ▶非エンジニア部門ではデータの流れがわからない
- ▶DataとOps(業務)が離れてしまう

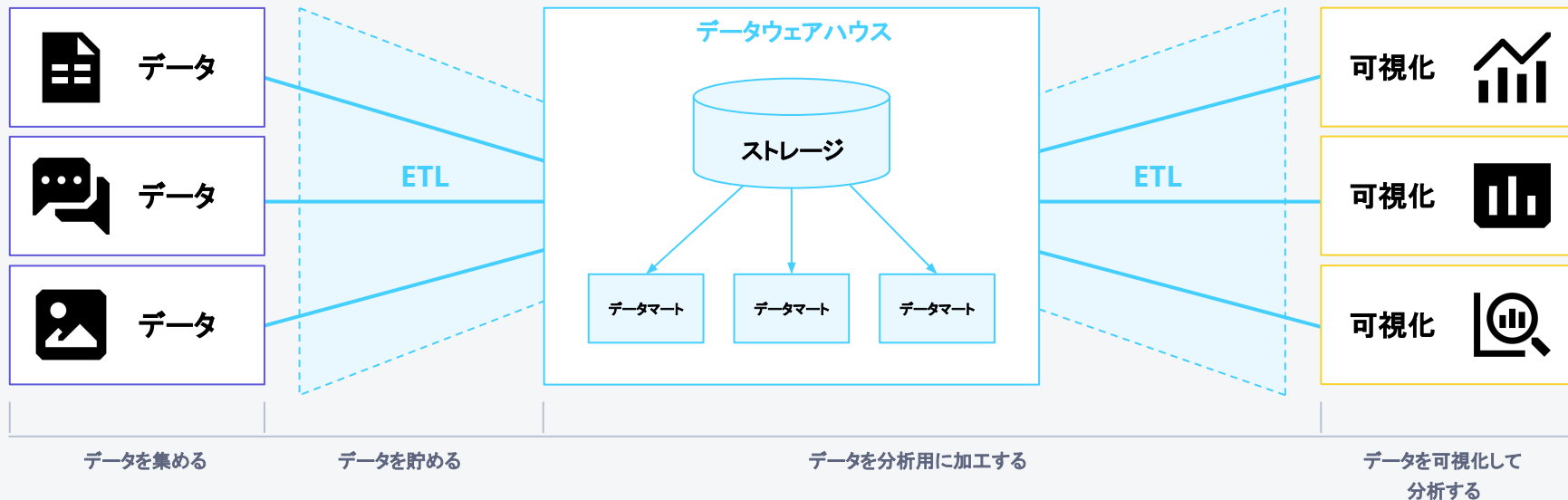
① 再現性(誰でも触れるか、PDCAしやすいか)

データをエンジニアだけが見えるモノではなく、非エンジニア(セールス・マーケティング・業務など)部門に対しても、データの連携・流れの見える化を行い、共通言語で話せるように**データの民主化**を行う必要有。そうすることで再現性が高く属人化させずにPDCAを回すことが可能。



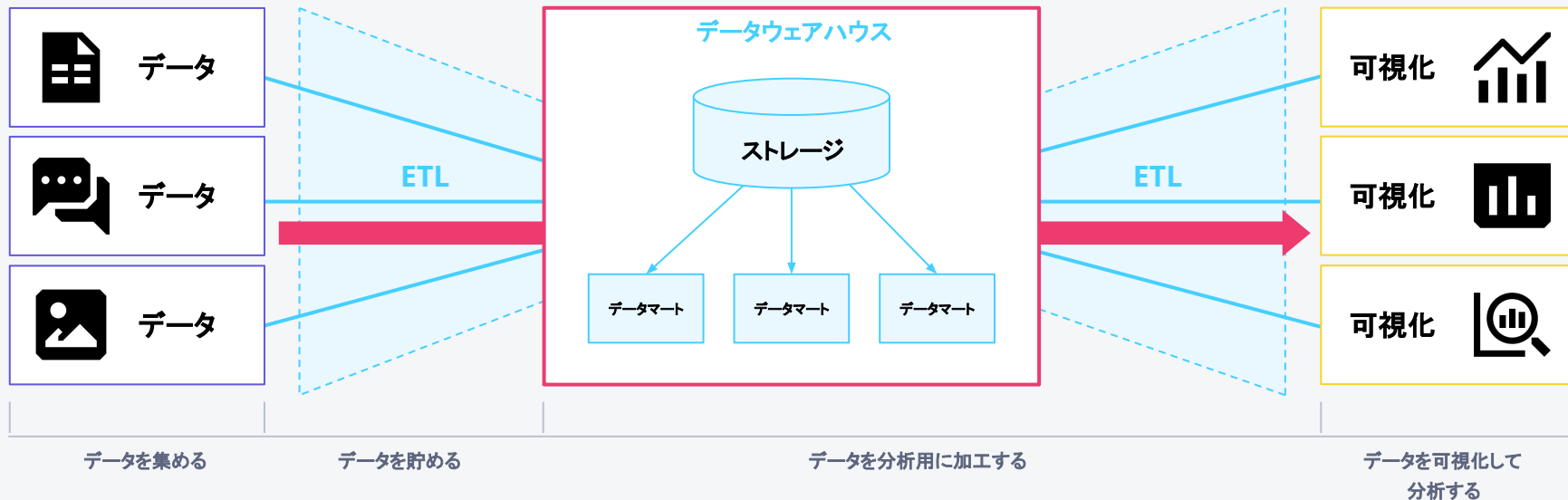
② データ基盤構築コスト(設計/開発・構築/保守)が低い

データソース⇒DWHへ、DWH⇒ツール・DBへデータ連携をする際に、連携ごとに個別のバッチを作成すると、設計/開発コストが高い。また、仕様やバージョン変更の際に再構築/保守のコストが発生。更に、設計/開発そして再構築/保守において低コストでデータ基盤を構築するインフラレイヤーの課題も浮き彫りに。



③ セキュリティとパフォーマンスの管理

データ連携の際に、処理に時間がかかってしまい、パフォーマンスが低ければ業務効率化の支障に。また、DWHのセキュリティをどれだけ強固にしてもデータ連携間で情報漏洩してはサービス/事業存続の危機に。データ連携間でのパフォーマンス・連携するデータ安全に連携するセキュリティが不可欠。



1 **再現性**(誰でも触れるか、PDCALしやすいか)

2 **データ基盤構築コスト**(設計/開発・構築/保守)が高い

3 **セキュリティとパフォーマンスの管理**

この3つを備えたデータ活用環境を整えること(ノーコード型ETL導入)が有効！

03

滑らかなデータ基盤を実現する ノーコード型ETLサービス Reckonerとは



クラウド型ETLサービスの決定版

データ連携作業の工数を 大幅削減

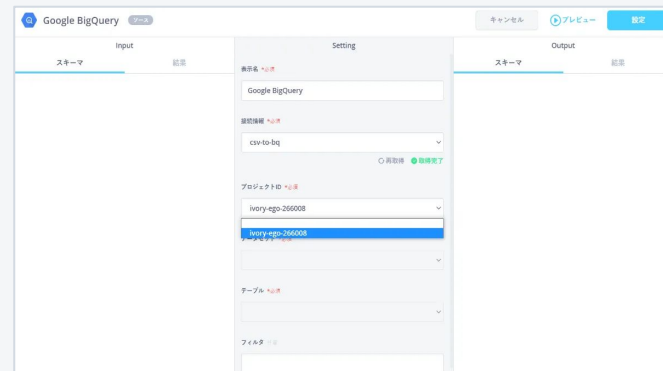
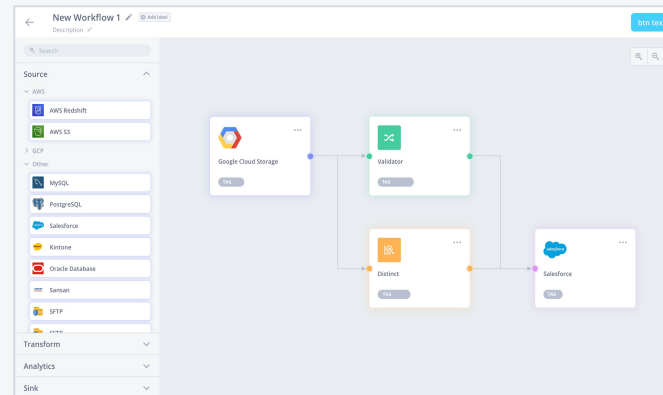
Reckonerはクラウド型ETL/データパイプラインサービス

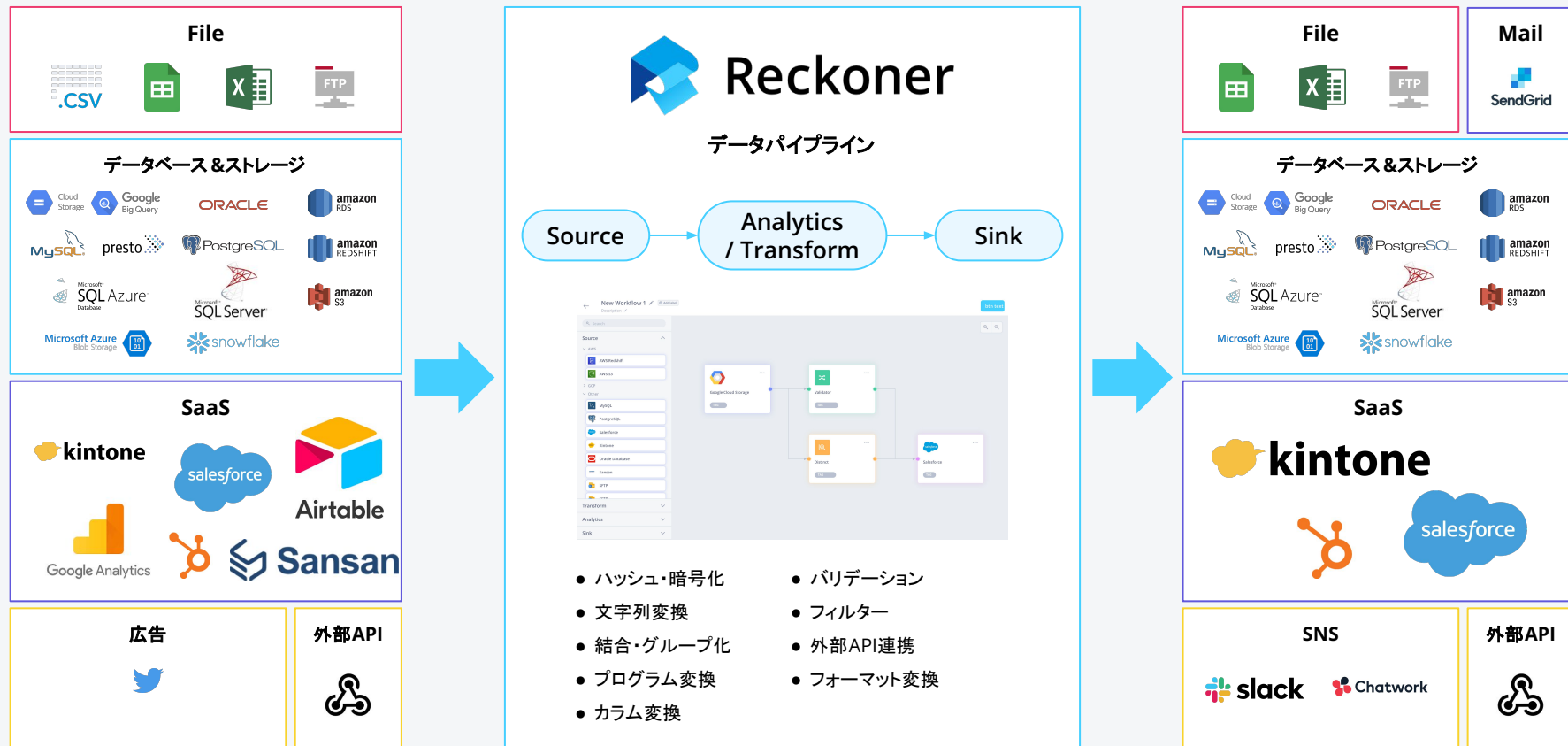
とことん使いやすさを追求

「仕様策定(プログラム設計)→実装→テスト→基盤構築→運用」と通常だと

非常に煩雑なデータ連携を、Reckonerは全てGUIで完結。

データ活用をこれまでにない直感的な方法で実現可能。





データソース

データマネジメント / 統合

データウェアハウス /
データマート / 機械学習

可視化

① 再現性(誰でも触れるかPDCAしやすいか)

▶ 非エンジニアでも一目でデータの流れるわかるUI

② データ基盤構築コスト(設計/開発・構築/保守)が低い

▶ バッチ処理など一切のプログラム不要！

③ セキュリティとパフォーマンスの管理

▶ SREのプロフェッショナルであるスリーシェイクが提供

▶ 快適に運用できるパフォーマンス性と高いセキュリティを実現

Reckonerはこの3つを備え、データ統合/活用に必要な環境を実現

Point
1

ノーコード

Point
2

豊富な連携先

Point
3

直感的に
操作可能なUI

Point
4

プレビュー機能

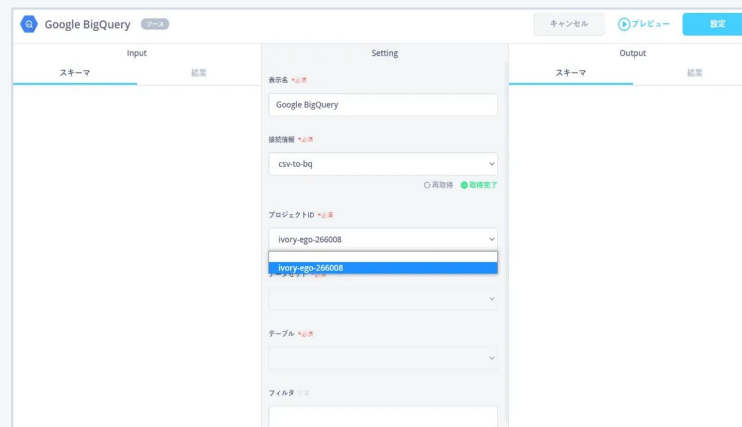
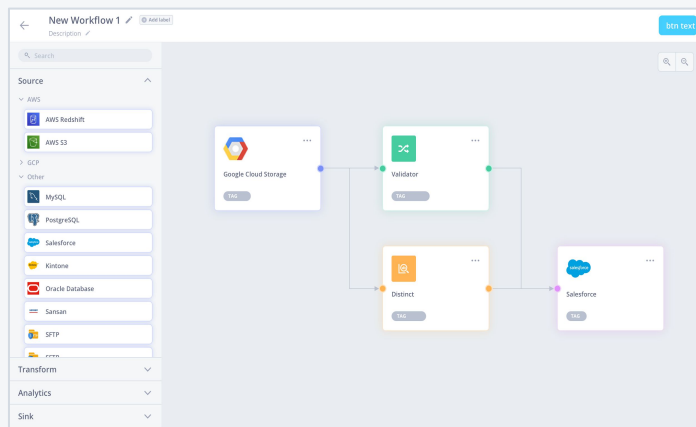
Point
5

安全なインフラ
セキュリティ



通常データ連携では、バッチの制作が必要。

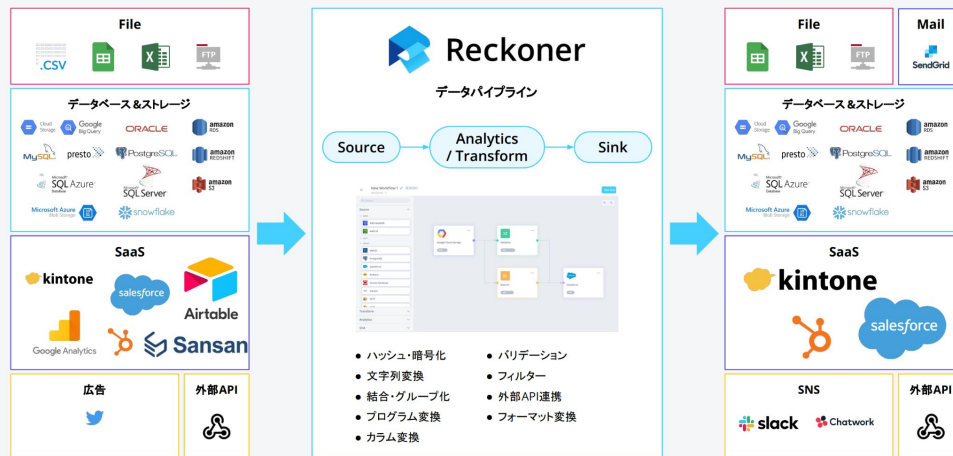
しかしReckonerなら、**一切のプログラムは不要。**
ワークフローの作成というシンプルなステップのみで実装可能。



多数のデータベースや SaaSアプリケーションと接続可能

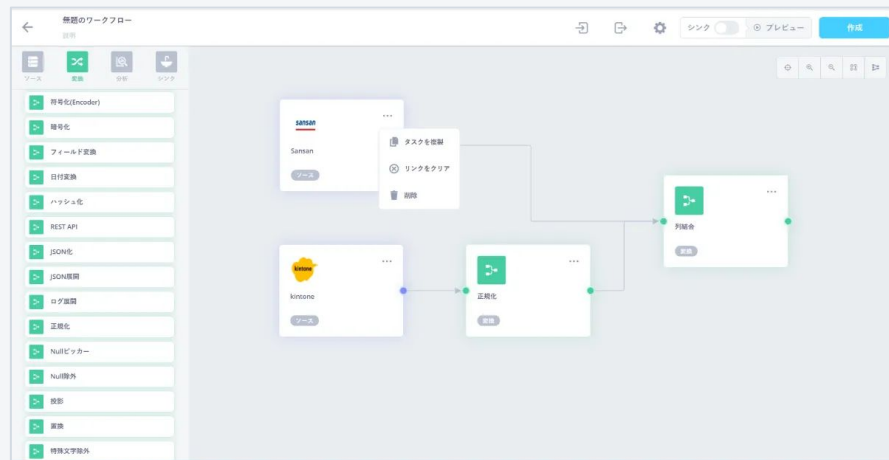
広告・SFA/MA・CRMなどなど、あらゆるデータソースと連携し、必要なデータの分析・活用が可能。

Reckonerは引き続き、さらに多くのデータソースとの連携を実施予定。



初期の設定～デプロイまで、 全ての操作が驚くほど直感的に設計

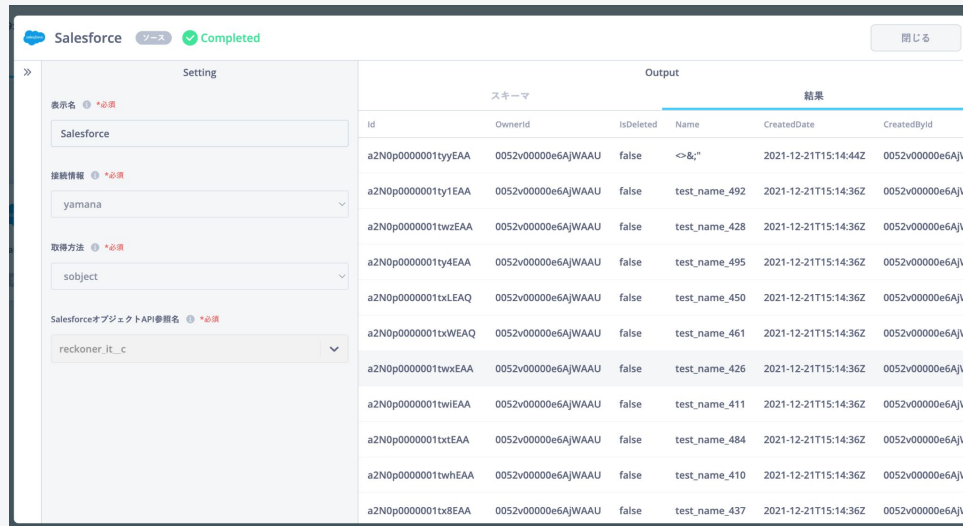
複数データソースからのデータ連携や、リアルデータでのプレビューなど、データ連携のかゆいところまで考慮され、非エンジニアでも扱いやすい設計



リアルデータで変換や結合の プレビューが可能

通常の実データ解析では、想定通りのデータが得られたか確認するために、検証環境の構築など様々なステップを得てデータ処理のフローを1つ1つ確認が必要。

しかしReckonerなら、画面上にリアルデータで処理結果のプレビューを表示することができ、常に結果を確かめながら操作をすることが可能。



The screenshot shows the Reckoner interface for a 'Salesforce' job. The job status is 'Completed'. The 'Setting' panel on the left shows the following configuration:

- 表示名: Salesforce
- 接続情報: yamana
- 取得方法: subject
- SalesforceオブジェクトAPI参照名: reckoner_it_c

The 'Output' panel on the right displays a table with the following columns: Id, OwnerId, IsDeleted, Name, CreatedDate, and CreatedById. The table contains 14 rows of data, including test names and their creation details.

Id	OwnerId	IsDeleted	Name	CreatedDate	CreatedById
a2N0p0000001tyEAA	0052v00000e6AJWAAU	false	<>&,"	2021-12-21T15:14:44Z	0052v00000e6AJW
a2N0p0000001ty1EAA	0052v00000e6AJWAAU	false	test_name_492	2021-12-21T15:14:36Z	0052v00000e6AJW
a2N0p0000001twzEAA	0052v00000e6AJWAAU	false	test_name_428	2021-12-21T15:14:36Z	0052v00000e6AJW
a2N0p0000001ty4EAA	0052v00000e6AJWAAU	false	test_name_495	2021-12-21T15:14:36Z	0052v00000e6AJW
a2N0p0000001txLEAQ	0052v00000e6AJWAAU	false	test_name_450	2021-12-21T15:14:36Z	0052v00000e6AJW
a2N0p0000001txWEAQ	0052v00000e6AJWAAU	false	test_name_461	2021-12-21T15:14:36Z	0052v00000e6AJW
a2N0p0000001twxEAA	0052v00000e6AJWAAU	false	test_name_426	2021-12-21T15:14:36Z	0052v00000e6AJW
a2N0p0000001twIEAA	0052v00000e6AJWAAU	false	test_name_411	2021-12-21T15:14:36Z	0052v00000e6AJW
a2N0p0000001txtEAA	0052v00000e6AJWAAU	false	test_name_484	2021-12-21T15:14:36Z	0052v00000e6AJW
a2N0p0000001twhEAA	0052v00000e6AJWAAU	false	test_name_410	2021-12-21T15:14:36Z	0052v00000e6AJW
a2N0p0000001tx8EAA	0052v00000e6AJWAAU	false	test_name_437	2021-12-21T15:14:36Z	0052v00000e6AJW

SRE(サイト信頼性エンジニアリング)に強い当社スリーシェイクのインフラ環境であり、**別途のETL基盤準備が不要**。つまりデータエンジニアリングをする上で、**可用性やバックアップ・セキュリティ対応などが不要**。
またPreview機能により、**ドライランも実施可能**。





ポイント①: 活用しにくいオンプレデータをクラウドデータウェアハウスに集約することで、分析だけでなく**様々な用途でのデータ活用が可能**

ポイント②: クラウドストレージと ETL サービスを組み合わせることで、**バッチの構築・運用コストを下げ**、セキュアなアーキテクチャで実現

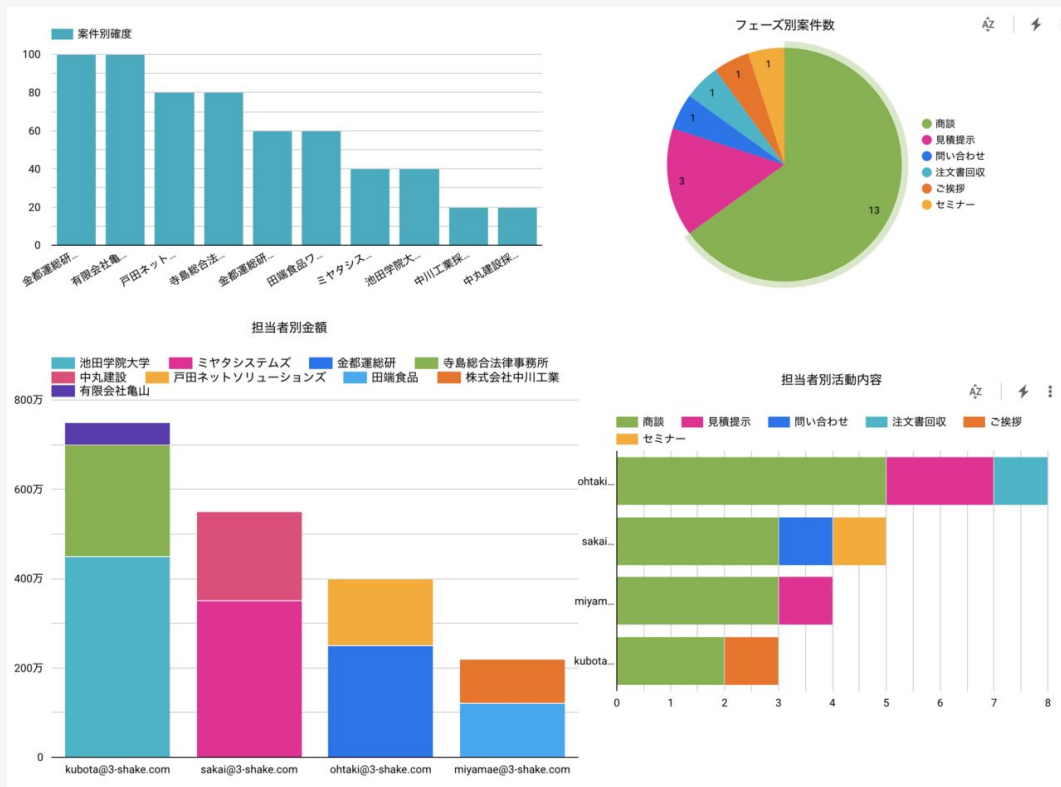
Reckoner × SFA/CRM × Google(BigQuery・データポータル)



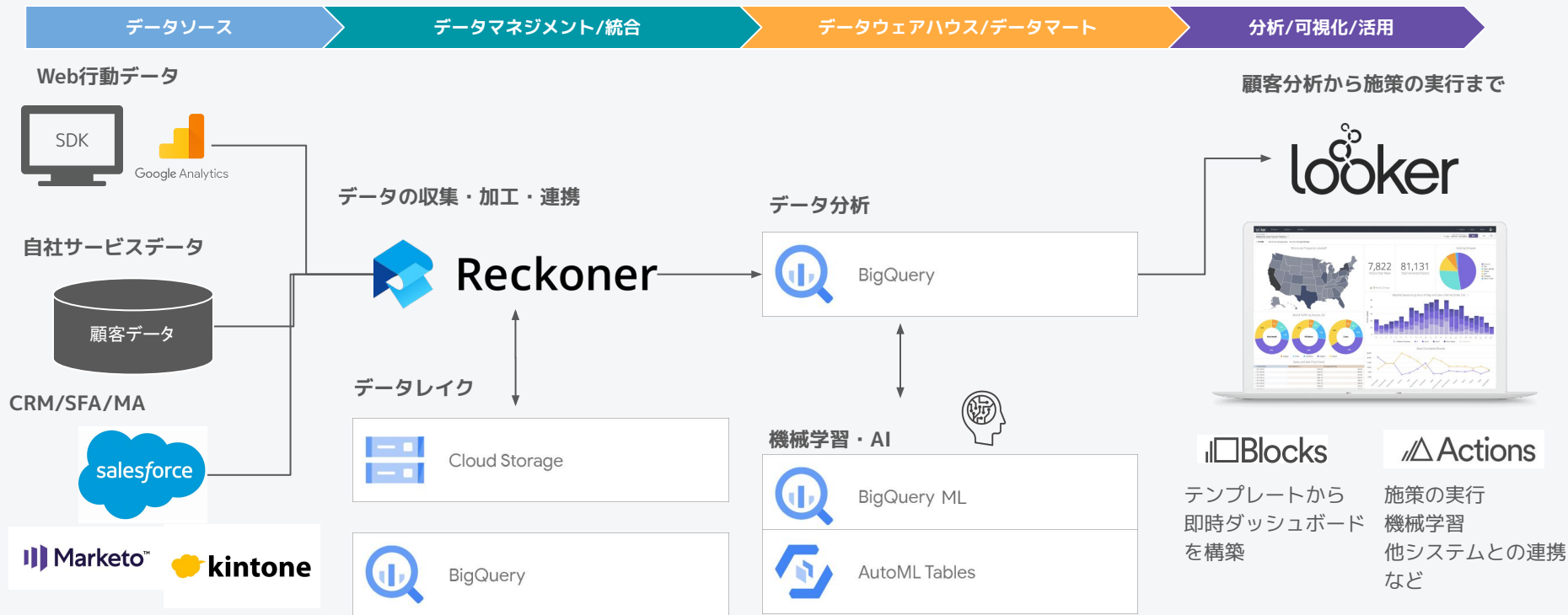
分析データの
加工/連携



CRMでは実現できない
レポートをデータポータルで再現。
BIツールを導入したことで
生産性・課題・問題点を可視化。



ユースケース: Reckoner(ETL) × BigQuery(DWH) × Looker(BI) = 次世代CDPの実現



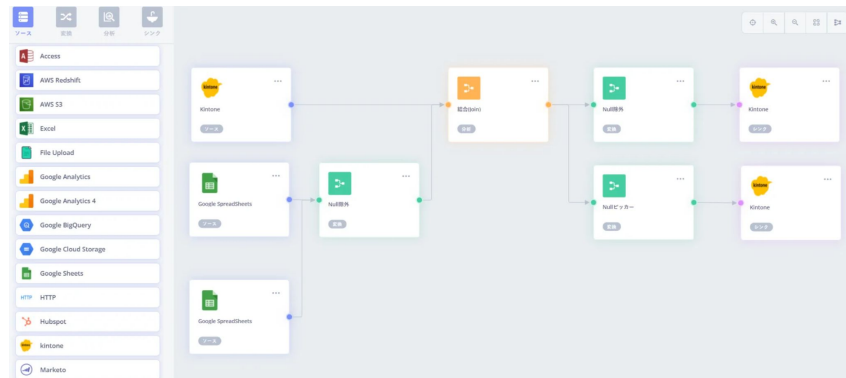
顧客分析から施策の実行まで

ユーザーデータのWeb行動データを始めとして、CRM/SFA等も連携し、自生台CDPの実現も可能

ノーコード型のデータ連携の活用を通じて、
企業活動を促進するデータ活用の実現が容易に可能！！

データ連携作業工数を大幅削減

Reckoner(レコナー)はクラウド型 ETL/データパイプラインサービスです。使いやすさを追求し、新たなデータ連携もストレスフリーで行うことが可能です



Thank you.